

大阪観光大学「大学の新しい役割」シリーズ第4回



加藤 素明
大阪観光大学
教授
国際交流委員長

近年大学に対して「地の拠点」としての「コミュニティーの中心」としての社会的役割を期待する声があり

景をふまえ、土地が育んだ知恵をよく見定め、これに寄り添う大学作りが必要です。小ざくても「地の知」に根ざした高度な研究・開発・育成の拠点でなければなりません。

昨年12月、大阪観光大学は台湾の大葉大学と国際交流協定を締結しました。

台湾でも有数の果物の産地である台中市近郊に立地する同大学は、これに立脚し、望んでおります。

国際交流が始まりました。日本と台湾、それぞれの人と知の交流によって相乗効果が生まれ、新たな次元の大学作りを推進できるよう期せずして、軌を一にする両大学の間で国際交流が始まりました。

「地の知」に根ざした国際交流

ます。地域の「知の拠点」であると同時に、立派な施設を建てて派手なイベントを催せばいいというわけではありません。

グローバルゼーションが進む今日、世界と伍していくための学問研究、産業開発、人材育成に大学が邁進するのは当然ですが、地域の中心となるには、大学が立地する地社会の中心となるに

指しています。

私ども大阪観光大学の地元泉州（大阪府南部）も農産物が豊富で、対岸に位置する関西国際空港の利も生かした



大葉大学と国際交流協定を締結

大阪観光大学
大阪府泉南郡熊取町
大久保南5-3-1 ☎590-0493
TEL 072-453-8222
<http://www.tourism.ac.jp/>
(併設校：明浄学院高等学校)